

## ヤングケアラーへの支援～孤立させない地域づくりに向けて～

令和6年9月27日(金)午後2時から高岡市ふれあい福祉センターにて、富山国際大学子ども育成学部子ども育成学科教授の相山馨様を講師にお招きし、ケアマネジャーができるヤングケアラーへの支援の第一歩を学びました。また、高岡市こども家庭センター係長の山本佳世子様から、高岡市こども家庭センターは、こどもや子育て世帯、妊産婦を対象に医療・福祉・保育・教育などの多方面から継続して一体的な支援を行う相談窓口になっていることを学びました。

### ～ヤングケアラー支援の対象年齢～

ヤングケアラー支援の対象年齢はこども期(18歳未満)に加え、進学や就職の選択など、自立に向けた重要な移行期を含む若者期を切れ目なく支えるという観点からおおむね30歳未満を中心としているが、状況等に応じ、40歳未満の者も対象となり得る。



### 『今回の研修で学んだポイント』

- ヤングケアラーは自分の家庭のことを話さないことで自分の身を守るという気持ちも持っている場合もある。
- ケアマネジャーは担当者のみならず、こどもを含めた家庭全体をとらえる視点が重要である。
- ケアマネジャーは定期的に家庭を訪問できる数少ない立場(アウトリーチ)だからこそ、こどもと出会い様子を見たり話をする機会がある。

ケアマネジャーの立場でできることは・・・

- ヤングケアラーかもしれない、という視点を常に持って接する
- まずは挨拶を交わす、「味方になりたい」と意思表示する
- こどもを介護力としない居宅サービス等の提案を行う
- 訪問回数を増やす、訪問時間を変えて訪問することで予防的アプローチを展開する
- 多くの支援者で関わる
- ヤングケアラーの居場所づくり (SNS などの活用)

“こども・若者の話を、本人を主役として聞いてくれる人がいる”そんな環境をみんなでつくっていくことが大切。それがヤングケアラーを孤立させない地域づくり!

